開発途上国・新興国等における医療技術等実用化研究事業

バイオデザインアプローチを用いた開発途上国・新興国の公衆衛生の課題解決に貢献する医療機器開発サポートシステム「グローバル・バイオデザイン」の確立

国立大学法人東京大学医学部附属病院　教授　小野　稔

（研究期間：　令和3年度～令和7年度）

研究目標

東京大学が中心となり公的性質を保ちつつ、医療機器開発の問題点を解決するだけでなく、個社努力では解決の難しい問題に対して、継続的に支援を行う仕組みを構築する。

研究成果

- 開発サポート機関として、国際機関や各国機関とのネットワーク構築、情報アクセス等に係る開発手法の知見の構築及びデザインプロセスの改善を継続実施
- 過去支援プロジェクトの対象国の関連機関(主に現地アカデミア)との定期的なコミュニケーションにより、中長期的な連携体制の基盤を構築
- 前年度までに得られた知見、成果に基づき、連携方法を含む持続可能な組織体制、公的性質の担保方法、組織全体、特に自組織内に追加で必要なケイパビリティの獲得・維持方法、実現可能かつ持続可能な収益形態を検討した

今後の展望

- デザインアプローチに係る開発手法の研究・実証
- 開発途上国への上市を目指す企業にとって、情報収集や戦略室案に際し有用なアプローチ手法の体系化を目指す
- 持続可能な組織体制、公的性質の担保方法、組織全体、特に自組織内に追加で必要なケイパビリティの獲得・維持方法、実現可能かつ持続可能な収益形態の基盤構築

対象国の関連機関との連携体制の基盤を強化

構築したネットワークを活用したセミナーの開催